

台風・大雨に対する農作物等の事前・事後対策（10月下旬～11月上旬）

1 普通期水稲

（1）事前対策

ア 排水路等を点検・整備し，長時間の冠水，滞水防止に努める。

（2）事後対策

ア 冠水した水田は，速やかに排水する。

イ 水田や用排水路等の土砂，木切れ等は，速やかに取り除き，収穫に支障がないようにする。

ウ 高潮などで海水が流入した水田は，速やかに排水し，かけ流しを行う。

2 畑作共通

（1）事前対策

ア 排水路等を点検・整備し，滞水防止に努める。

（2）事後対策

ア 滞水したほ場は，速やかに排水する。

イ 潮風害が懸念される場合，散水施設のあるほ場では，台風通過後，速やかに散水する。

3 さつまいも

（1）事前対策

ア 排水路等を点検・整備し，滞水防止に努める。

（2）事後対策

ア 茎葉の傷みやさつまいも基腐病の発生が見られるほ場では，速やかに収穫を行う。

4 さとうきび

（1）事後対策

ア 新植夏植えでは，苗が流出したら補植する。また，埋没したら芽掘りを速やかに行う。

イ 潮風害が懸念される場合，散水施設のあるほ場では，台風通過後，速やかに散水する。

5 大豆

（1）事後対策

ア 株元の土が洗い流された場合は，土寄せを行う。

イ 子実肥大期のほ場では，葉の損傷による紫斑病の発生を防止するため，薬剤散布

を行う。

6 野菜

(1) 事前対策

- ア 防風垣，防風ネット等の補強を行い，強風による被害を最小限に食い止める。
- イ ほ場及び施設周囲の側溝，排水溝の点検・整備を行う。
- ウ 収穫期に近い野菜は，収穫する。
- エ 育苗中の苗は，室内等の安全な場所に持ち込むか，べたがけ資材等でトンネル被覆する。
なお，べたがけ資材等は，できるだけ低く設置し，強風で苗を傷つけないように留意する。
- オ つる性のきゅうりは，「つる下げ」を行い，べたがけ資材等で被覆し，しっかりと固定する。「つる下げ」ができない場合は，支柱やネットが倒れないように，しっかりと固定する。
- カ 根深ねぎは，土寄せやテープ等を張り，茎葉の折損，倒伏を防ぐ。
- キ さといも（大吉）の早植マルチ栽培で倒伏が懸念される場合は，茎葉を切断する。
- ク ピーマン，なす等定植直後のものは，支柱等にしっかりと固定する。
- ケ かぼちゃ，豆類（そらまめ等），葉茎菜類（きゃべつ等）は，可能であればべたがけ資材で被覆する。
- コ いちごは，べたがけ資材等で被覆固定し，茎葉の傷みを軽減する。

(2) 事後対策

- ア 被覆資材等は，直ちに除去する。
- イ 強風により倒伏等の被害を受けた株は，直ちに支柱に固定する。
- ウ 茎葉の折損部からの病害侵入を防ぐため，直ちに殺菌剤の散布を行う。
- エ 草勢の回復を図るため，葉面散布または化成肥料による追肥を行う。
- オ 室内に持ち込んだ苗は，速やかに外へ持ち出して広げる。
- カ きゅうり等で「つる下げ」を行ったものは，台風通過後，速やかに「つる上げ」を行う。
- キ 強風によりはがれた土壌消毒用の被覆資材は，速やかに張り直す。

7 花き

(1) 事前対策

- ア ほ場及び施設周囲の側溝，排水溝の点検・整備を行う。
- イ 定植直後の草丈の低いものは，べたがけ資材で被覆固定する。
- ウ 仕立て直しが可能な花き類は，フラワーネットや支柱を外し，剪定するか倒伏させて，べたがけ資材で被覆固定する。
- エ 収穫直前の切り花は，台風接近の様子を見て，やや硬めでも収穫する。
- オ 鉢物類は鉢を寄せ，べたがけ資材で被覆固定する。大鉢は同一方向に倒す。
- カ 露地電照栽培やビニル除去後の施設栽培では，電照用の電球を外す。
- キ キク母株は，可能な限り採穂・冷蔵し，残った株を防風ネットやべたがけ資材で

被覆し、しっかり固定する。

ク 露地のキク、ソリダゴ等は、支柱を補強（打ち込み直し、本数増加）し、フラワーネットがずれ落ちないように支柱に固定する。

ケ 停電が予想される場合は、発電機と燃料を準備する。

（２）事後対策

ア 生育中の花き類で倒伏したものは、風が弱まり次第、直ちに株の立て直しを行う。

イ 仕立て直しが可能な花き類は、整枝や株の切り戻しを行い、草勢の回復を待つ。

ウ 株に泥が付着している場合は、速やかに水で泥を洗い流す。

エ 茎葉の折損部からの病原菌侵入を防ぐため、速やかに殺菌剤の散布を行う。

オ ビニルや遮光資材を被覆し、強い光や降雨から植物を守る。

カ 外した電球を速やかに取り付け、電照やタイマー、冷蔵庫など電気設備の再点検を行う。

キ マルチ栽培で滞水したほ場では、マルチのサイドをめくり上げ、土壌の乾燥を促す。

ク 鉢物類は被覆固定したべたがけ資材を外し、もとの位置に戻すとともに、倒した鉢は速やかに起こす。

ケ 露地のキク、ソリダゴ等は、軽く中耕・土寄せを行い、薄めの液肥を施用する。

コ 潮風害が懸念される場合、スプリンクラー等で、台風通過後、速やかに散水する。

サ 停電が続く場合は、キクでは発電機を使って電照を行い、花芽分化を防ぐ。

8 果 樹

（１）事前対策

ア 防風樹や防風施設の点検・整備を行う。

イ ほ場及び施設周囲の側溝、排水溝の点検・整備を行う。

ウ 幼木や若木は倒伏しやすいので、支柱を立てて補強する。

エ 高接ぎ樹等は接ぎ木部が裂けないように、支柱に誘引する。

オ 病害発生の懸念がある場合は、予防散布を行う。

カ 収穫中の温州ミカンでは、適熟のものから先に収穫する。

（２）事後対策

ア 倒伏樹は速やかに起こし、株元に土入れして再倒伏を防ぐ。

イ 枝裂けや枝折れした場合は、切除して癒合剤を塗布する。

ウ 病害発生の懸念がある場合は、台風通過後、速やかに殺菌剤の散布を行う。

エ 樹勢低下が懸念される場合は、樹勢回復を図るために葉面散布を行う。

オ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、台風通過後、速やかに散水する。

カ 落下した果実や腐敗した果実は、園外に持ち出し処分する。

9 茶

（１）事前対策

- ア 茶園に防風ネットを設置している場合には、保守・点検を行う。
- イ 幼木園では、枝の折損や樹の倒伏を防ぐため、状況に応じて徒長枝を剪定する。
- ウ 防霜ファンの支線等を外している場合には、元に戻す。
- エ 製茶工場の電気施設及びガス・重油保管施設は、電源や元栓を確認する。
また、煙突や排気口・換気扇等の補強・整備を行うとともに、工場内を見回り、電子機器等が濡れないよう対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 生育ステージで芽が柔らかいほ場では、殺菌剤を散布する。
- イ 肥料が流亡している可能性があるほ場は、施肥を行う。
- ウ 幼木園で、株元の土が流亡したり、茶樹が横倒しになったりしている場合には、速やかに起こし、株元に土寄せを行って踏み固める。
また、欠株が生じた場合は、秋以降に補植を行う。
- エ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、台風通過後、速やかに散水する。

10 葉たばこ

(1) 事前対策

- ア 乾葉の保管場所の点検を行うとともに、乾葉にシート等を被覆する。

(2) 事後対策

- ア 乾葉の保管場所の点検を行うとともに、濡れた乾葉がある場合は、仕分けして再乾燥する。

11 畜産

(1) 事前対策

- ア 畜舎の補強や、物が飛散しないよう格納、点検する。
- イ 畜舎周辺の排水溝の清掃、点検を行う。
- ウ 給餌、搾乳、通風、換気等電力施設・機械を利用しているところは、停電が懸念されるので発電機を準備する。
- エ トウモロコシ・ソルガム等刈取適期に近い作物は、刈り取る。

(2) 事後対策

- ア 台風通過後は、直ちに畜舎内外の排水を行って畜舎内を消毒する。
- イ 今後も生育が見込まれるトウモロコシ・ソルガム等は、ほ場の排水を行い追肥を行う。
- ウ 折損・倒伏したトウモロコシ・ソルガム等は、速やかに刈り取り、次作の作付けを急ぐ。

12 園芸作物のハウス等農業施設の保護

(1) 事前対策

ア 防風垣や防風ネットの設置と補強を行う。

イ ハウスは、杭の補強とハウスバンドの締め直しを行い、ビニルの破れた箇所は補修し、ハウス全体をしっかりと固定する。

また、強風が懸念される場合は、ビニルを剥ぎ取り、作物は防風ネット等でべたがけを行い、保護に努める。

ウ 果樹の防鳥・防蛾用資材（忌避灯・ネットの被覆）の補強は、張力専用線を用い、中柱の補充と周囲線の補強を行う。

エ ハウス周囲の排水路等を直ちに点検・整備し、ハウス内の浸水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 台風通過後は、直ちにハウス等農業施設周辺を見回り、異常がないか確認する。

イ 強風でゆるんだハウスバンド等は締め直し、ビニルの破損は張り替えるか、補修する。

ウ 作物を保護していた防風ネット等は取り外す。

13 農業機械の保護

(1) 大雨により浸水などの被害が見込まれる場所から、農業機械を待避させる。

(2) 泥水に浸かった農業機械は絶対にスイッチを入れないこと。農機販売業者等に点検を依頼する。